



五木東小 第15号

学校便り
文責
生田 文明

秋の夜長を

読書で



朝夕涼しくなり、読書をするには最高の季節。まさに「読書の秋」となりました。

子どもたちは、昼休みになると、自分の好きな本を読もうと図書室へ。毎週金曜日は、本を二冊借りることができ、図書室はとても賑わいます。

今、読書の秋を楽しむため、「おすすめの本一〇〇選」に取り組んでいます。これは、学年に合った様々なジャンルの本を紹介することで、たくさんのお本と出会ってほしいとの願いから始めました。秋の夜長を、子どもと一緒に本を読んだり、親子で読み聞かせをしたりと、本に親しむ時間をぜひ、設けてください。

ところで、図書室の本を大切に使うために「本バック」の使用をお願いします。ご家庭にある手提げやバック等を図書室の本入れとして利用をお願いします。また、子どもたちへの声かけもよろしくお願いします。



五木の昔のくらしは

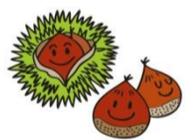
四年生の社会科「くらしの中に伝わる願い」の学習で、子守唄公園内にあるかやぶき民家を見学しました。

観光協会の淀川さんから、アイロン、電話、火鉢など昭和初期の道具について説明していただきました。子どもたちは、「見たことある。」と言いながら、メモを取っていました。

昔の五木村の写真も見せていただき、木材の運搬、炭出しなどを人力で行っていたこと、長い道のりを歩いて登校していたこと、雪が2mも降り積もった時もあったことなど、様々な話を伺うことができました。

見学後は、実際に昔の道具を使って、学校で体験学習（七輪での餅焼き）を行いました。なかなか炭に火がつかず、炭に火がつくまで、一時間もかかってしまいました。火力を調節が難しく、苦勞をしながらも無事にお餅を焼き上げることができました。苦勞して焼いた分、とてもおいしいお餅になったようです。

昔の暮らしを知ること、当たり前前としか感じない今の便利な道具、くらしを立ち止まって考えるよい機会となりました。



児童が創造する授業

本校は、複式学級であるため、一つの教室で、違う教科・内容の学習を同時に行うことが多くあります。

その際、要になるのが、児童が自ら、学習を進めていく力です。教科担当者、あるいは、日直が、学習リーダー、学習ガイドとして、自分の学年の学習がスムーズに行うように授業の司会進行を行います。

一方、リーダー役以外の児童も積極的に質問、意見、考えを出し合い、学習のめあて、課題解決に向けた授業を創造していきます。

受け身の授業から、積極的、意欲的な授業へ。児童自ら、その時間のねらいを達成するための授業づくりをおこなう。このことは、主体的な学習を育むうえでとても重要なことです。少人数、複式学級のよさがまさに生きる時です。

リーダーとしての授業の司会進行、みんなの前での意見発表、お互いの意見交流など、現状は、まだまだ道半ばのところですが、校内での授業研究会などを通し、児童自ら創り出す授業をめざし、今後も職員一丸となって、取り組んでまいります。

